

# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□中□

田中さんが陶芸を始めた通ったのがきっかけ。その後は、同市内の佐藤栄氏と下

古里釧路に戻り平成元年に釧路焼 陶豊窯を市内に開いた。

常に挑戦 材料を吟味し

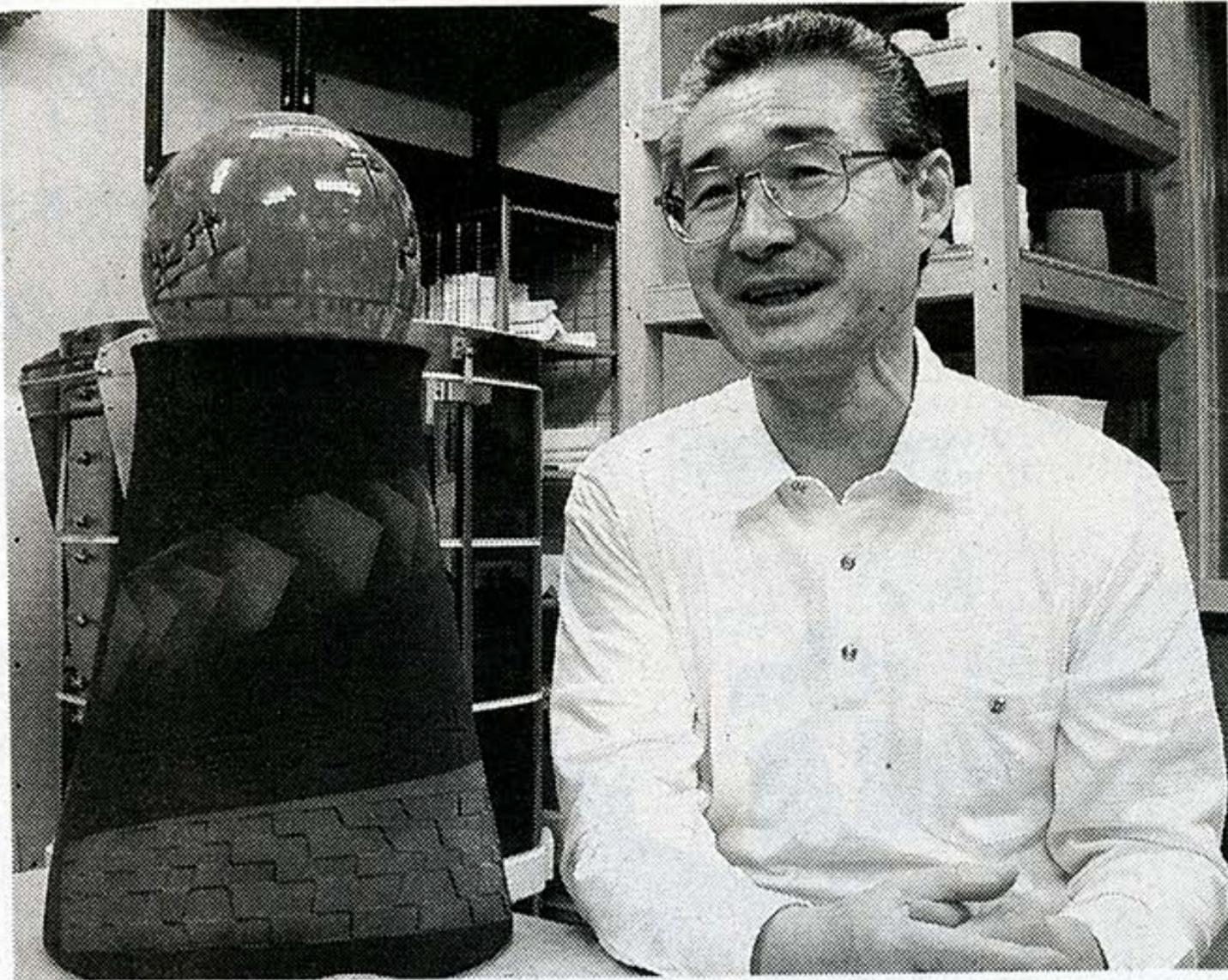
翌二年には釧路市コア鳥

取の成人学校の陶芸講師に招かれ、同四年には道美術作家協会(道美展)に初出展して会長賞を受賞、同八年に全道美術協会(全道展)に初出品して初入選を飾った。また、同九年には全道美術協会(全道展)入選、今年も同奨励賞を受賞するなど、年ごとに作品に独特の味わいを深めている。

一方、市内で五年連続、

丹青で五回にわたって、作品展を開催し百点余りを展示、田中さんのファンも多い。とくに、田中さんは焼き物の表面に塗る釉薬(ゆうやく)もいろいろな材料を吟味しながら自分で作りあげるといふ。例えば、

常に工夫しながら新しい作品づくりに励む田中さん



陶芸 釧路焼 陶豊窯

## 田中 豊さん(53)釧路市春採2の35

# 釉薬の研究重ねて 陶芸の分野に新たな風

どんぐりの力サを水にひたしておくとなさくなるが、これを一昼夜つけておき、

ざやかな色をした織部といわれる釉薬ができるなど、常に新しいものを取り入れる作品作りに研究を重ねている。

作品のために 努力惜しまず

今年に入って、オブジェの製作にも取り組み、六個作ったが空気膨張などで壊れ、二個だけ残った。本命としていた作品は破損してしまい「この時は、気落ちして何日も陶芸をやらなかった」と振り返る。田中さんの作品に対する執着心を象徴している。

また、陶芸作品に刻み込む文字を彫るため、書道家のもとに通い、苦勞しながら準師範を取得したという努力家でもある。「とにかく、陶芸を通じていろんな分野を知ることが楽しい」と笑顔で話す表情は生き生きしている。

それから析液という釉薬をつくったり、釧路町細岡から採取してきた灰を焼くと、酸化してグリーンのある。

りあげるといふ。例えば、